JRC/全日本ラリー選手権 2021年シーズン

2台の GR ヤリスを投入する TOYOTA GAZOO Racing をオフィシャルパートナーとして PIAA がライティングなどでサポート!

勝田範彦選手がラリー北海道を制し、グラベル2連勝を達成!!



ラリー北海道 総合優勝 JN1 クラス 勝田・木村選手組(GR YARIS GR4 Rally)

引き続き奴田原文雄、鎌田卓麻をライティング、撥水ワイパーなどでサポート! JN6 クラスでは吉原將大選手が 6 連勝でタイトルを確定



JN1 クラス 鎌田・松本選手組



JN1 クラス 奴田原・東選手組

■概要/Outline

国内外のレースシーンで活動する PIAA はラリー競技においても長年サポート活動をしてきた。WRC(世 界ラリー選手権)で数多くのワークスチームをサポートするほか、国内最高峰シリーズの JRC (全日本ラリ ー選手権)においても 1982 年に横浜ゴムと名門タスカエンジニアリングのもと ADVAN-PIAA Rally Team を結成して以来、アドバンのワークスドライバーとともに数々のタイトルを獲得してきた。

その活動は 2021 年も数多くのサポートチームおよびサポートドライバーが国内最高峰の JRC で活躍し

ている。その中で、今季より GR ヤリスで JN1 クラスへの参戦を開始した TOYOTA GAZOO Racing は、エースドライバーの勝田範彦選手が第 7 戦のラリーカムイ、第 9 戦のラリー北海道を制し、グラベル戦で 2 連勝を達成。さらに JN1 クラスに初参戦の眞貝知志選手も GR ヤリスを武器にラリーカムイで4位入賞を果たすなど、同チームの 2 台の GR ヤリスはデビューイヤーから素晴らしい走りを披露している。





JN1 クラス 眞貝・箕作選手組

JN1 クラス TGR チームのサービス

また、itzz ラリーチームでスバル WRX STI を駆る鎌田卓麻選手もラリー北海道で今季 3 度目の 3 位入賞を果たしたほか、長年に渡って ADVAN-PIAA ラリーチームの三菱ランサーで活躍してきた奴田原文雄選手も自身のチーム、NUTAHARA ラリーチームを結成し、トヨタ GR ヤリスで参戦。緒戦となった第 3 戦のツール・ド・九州で 3 位に入賞したことは記憶に新しい。

一方、JN3 クラスでは NUTAHARA ラリースクールでトヨタ 86 を駆る大竹直生選手が計 3 勝をマークしたほか、MATEX-AQTEC ラリーチームでトヨタ・ヤリスを駆る吉原將大選手が JN6 クラスで開幕 6 連勝を達成するなど若手ドライバーが躍進。このように 2021 年の JRC においても各クラスで PIAA サポートユーザーたちが上位争いを展開している。



JN3 クラス優勝 大竹・藤田選手組



JN6 クラス優勝 吉原・石田選手組(シリーズクラスチャンピオン獲得)

■レポート/Report

2021年のJRCは開幕戦の「ラリー嬬恋」と第8戦の「横手ラリー」が中止になるなど、昨年と同様に新型コロナウイルスの影響により波乱のシリーズとなる中、今年もPIAAのサポートチーム、サポートドライバーが各クラスで活躍している。

その中で注目のチームのひとつとしては、トヨタのワークスチーム「TOYOTA GAZOO Racing」で、WRC でTOYOTA GAZOO Racing World Rally TeamをフォイシャルパートナーとしてサポートするPIAAは、JRC でも TOYOTA GAZOO Racing をオフィシャルパートナーとしてサポート。同チームでは最新 4WD ターボの GR ヤリスを武器に今季より JN1 クラスに参戦しており、昨年までスバル WRX で幾多のチャンピオンを獲得し活躍していた勝田範彦選手をエースドライバーに起用するほか、同チームのトヨタ GRMN ヴィッツを武器に JN2 クラスで活躍していた眞貝知志選手をチームメイトに起用するなど豪華な顔ぶれで、その期待に応えるかのように2台の GR ヤリスは素晴らしい走りを披露している。

序盤戦こそ新型車の開発途上ということもあり苦戦を強いられていたが、第5戦のラリー丹後で勝田選手が2位入賞を果たして初の表彰台を獲得すると、シーズン初のグラベル戦となった第7戦のラリーカムイでは勝田選手がGRヤリスでの初優勝を獲得。その勢いは第9戦のラリー北海道でも健在で、今年で20回目の開催となる記念大会を制してグラベル戦で2連勝を達成、同じJN1クラス参戦ながら格上のR5車両を凌駕する走りを披露しており、ランキングでも2位に浮上した(第9戦終了時点)。

これと同時に JN1 クラスに初参戦を果たしたチームメイトの眞貝選手も安定した走りを披露。ラリーカムイでは自身のベストリザルトとなる4位入賞を果たすなど勝田選手とともに GR ヤリスのパフォーマンスを証明し、最高峰クラスに初参戦ながら調子を上げてきている。





このように 2021 年の JRC で TOYOTA GAZOO Racing の2台の GR ヤリスが躍進を見せているが、itzz ラリーチームの鎌田卓麻選手も PIAA のサポートドライバーとして熟成を極めたスバル WRX で躍進している。実質的な開幕戦として開催された第 2 戦の新城ラリーで荒天の中で不運なクラッシュを喫し、負傷した鎌田選手は第 3 戦のツール・ド・九州をスキップしたものの、第 5 戦のラリー丹後で復帰し5位入賞。その後も第 6 戦のモントレーで 3 位に入賞すると、第 7 戦のラリーカムイ、第 9 戦のラリー北海道でも 3 位に入賞するなど計 3 回の表彰台を獲得した。

また、長年に渡って ADVAN-PIAA ラリーチームの三菱ランサーで活躍してきた奴田原文雄選手が自身のチーム、NUTAHARA ラリーチームを結成し、トヨタ GR ヤリスに電撃スイッチし参戦を開始したことも2021 年の JRC を語るときに欠かせない大きな出来事と言える。奴田原選手は緒戦となった第3戦のツール・ド・九州でRJ 車両の最高位となる3位入賞を果たし表彰台を獲得した。残念ながら、その後はニューマシンならではのマイナートラブルなどにより、苦戦を強いられて来たが、着実にマシンの熟成が進んでいるだけに終盤戦では上位争いに期待が高まる。





JN1 クラス ADVAN KTMS Yaris 奴田原・東選手組

JN1クラス itzz DL SYMS WRX STI 鎌田・松本選手組

以上、最高峰の JN1 クラスを中心に紹介してきたが、他のクラスでも PIAA のサポートドライバー、サポートチームが躍進している。

まず、JN3 クラスに目を向けると NUTAHARA ラリースクールでトヨタ 86 を駆る大竹直生選手が第3 戦のツール・ド・九州、第7戦のラリーカムイ、第9戦のラリー北海道と計3勝をマークしてランキング首

位に浮上したほか、JN6 クラスでは MATEX-AQTEC ラリーチームでトヨタ・ヤリスを駆る吉原將大選手がラリー北海道で開幕 6 連勝を達成し、シーズン終了を待たずしてタイトルを確定した。

さらに、JN5 クラスにおいては第5戦のラリー丹後でトヨタ・ヤリスを駆る内藤学武選手、第6戦のモントレーでトヨタ・ヤリスを駆る渡部哲成選手がそれぞれ1勝を上げるなど、若手ドライバーが躍進していることも 2021 年の JRC のトピックスといるだろう。

そのほか、ラリー北海道ではベテランの辻井利宏選手がチームの若手育成のためには、自身もドライバーとして実戦に参戦することで活かしていくという目的も含めて、トヨタ・ヴィッツを武器に JN5 クラスでドライバーとして初参戦し 9 位につけるなど、MATEX-AQTEC ラリーチームは投入した 4 台全てのマシンが 過酷な高速グラベルラリーを走破。



JN5 クラス #90 辻井・佐野選手組



JN5 クラス #84 内藤・小藤選手組



JN5 クラス #83 渡部・佐々木選手組



JN6 クラス #91 吉原・石田選手組

またクスコレーシングのトヨタ・ヤリスで JN6 クラスに参戦する水原亜利沙選手も PIAA のサポートドライバーとして活躍しており、これまでの 6 戦中 5 戦で表彰台を獲得するなど安定した走りを披露している。



JN6 クラス 3 位 CUSCO Racing 水原・高橋選手組



まさに 2021 年も PIAA のサポートチーム&ドライバーが各クラスで活躍しており、最終戦までトッップ争い、さらにタイトル争いを左右するような活躍が期待されます。

■ユーザーの声/User's Voice

眞貝知志選手

TOYOTA GAZOOO Racing/ドライバー

マシン: GR YARIS GR4 Raily





「GRMN ヴィッツの時から PIAA の HID ランプを使用していましたが、色味が自然で見やすかった印象があります。補助灯をつけるとナイトステージでは遠くまで飛ばしてくれていたので、安心していました。今年から LED のバータイプの補助灯を使用していますが、スイッチをいれてから安定するまでに 30 秒ぐらい時間を要する HID に対して、LED はすぐに安定しているので走行中にランプが必要なシチュエーションになってもレスポンスがいいのでラリー競技に最適だと思います。今年はナイトステージがないので細かいライトセッティングを試していませんが、照射範囲は広いし、色味もナチュラルなので、あとは遠くをより見えるようなチューニングをしたいですね」 ※画像は 2021 年 R-6 モントレー

宮本昌司氏

TOYOTA GAZOOO Racing/チーフメカニック

マシン: GR YARIS GR4 Rally





「LED のバータイプのランプポッドを採用していますが、取り付けはイージーになりましたね。GRMN ヴィッツで使用していた HID のランプポッドは、ケースカバーかアルミでステーを作らないといけないんですけど、LED バーランプはそれ自体がフレームになっているのでブラケットをボディに合わせるだけで OK です。取り付け剛性も高いし、調整も簡単なのでメカニックとしてはラクですね。テストをした結果、10 インチのバーランプを4本装着。LED は指向性が高い(=照射範囲が狭い)のですけど、PIAA のバーランプは拡散してくれるので4本をうまく配光すればムラなく広範囲を照らすことができるので十分なスペックだと思います。重量的にも HID のランプポッドよりも軽いですし、消費電力も圧倒的に少ない。チラつきもないので安心できますね。LED はコンパクトなのでドライバーの視線の邪魔になることもないのでレイアウトしやすい。PIAA の LED バーランプは 20 インチのロングタイプもあるので、2022 年は長いバーランプを試してみたいと思います」

奴田原文雄選手

NUTAHARA Raily team/ドライバーマシン: ADVAN KTMS GR ヤリス



「今年から GR ヤリスにマシンを変更したので、それに合わせて LED のバータイプのランプポッドを採用しました。まだテストしかしていませんが、明るくていいですね。コンパクトだけど、遠くもしっかり見えるし、照射範囲も全体的に明るく見える。色味もナチュラルでいい。アイドリングも変わらないし、LED はスイッチを入れてすぐに見えるのでドライバーとしては助かります。あとランサーの時から撥水ワイパーを長年使っているんで

すけど、拭き残しもないし、まったく気にならない。昔は撥水コート剤を塗っていたけれど、ここ数年は何も 塗らずにワイパーだけで(撥水するので)問題ないですね」

山田淳一氏

NUTAHARA Raily team/チーフメカニック

マシン: ADVAN KTMS GR ヤリス





「他のクルマになるんですが、PIAA のバータイプの LED ランプを装着してナイトラリーに出場したら、すごく明るかったので、GR ヤリスに LED のバーランプを装着することになりました。ランサーに装着していた HID のランプポッドと比べると軽いけれど、まだちょっと重たいので PIAA さんには軽量化に期待したいですね。ただし、消費電力は少ないので LED のランプポッドはメリットが多い。現在の LED ランプバーは長くなって明るいし、配光も良くなっている。HID と比べると距離は届かないけれど、手前が明るいので見やすいからいいと思う。PIAA のランプは HID から使っているけれど、いまの LED ランプはベストなシステム。撥水ゴムワイパーもずっと三菱ランサーの時から使用しているんですけど、本当にいいですね。面倒くさいからコート剤は塗っていないんですけど、これならワイパーだけで(撥水するので雨滴を簡単に)拭き取ってくれるのでメカニックとしてはありがたいです」

大竹直生選手

NUTAHARA RALLY SCHOOL/ドライバー

マシン: ADVAN KTMS ヌタハラ RS86



「ヘッドランプも PIAA の LED ですし、ランプポッドも PIAA の LED のバーランプを使用していますが、明るいし、広角に照らしてくれるのでコーナーのイン側が見やすいので助かりますね。正面だけではなく、全体が明るいのでラリー競技に最適なランプシステムだと思います。色味もクリアな白なので僕は好きです。撥水ゴムワイパーも拭きムラもないし、ビビったりもしないので雨のステージでもドライビングに集中できますね」

吉原將大選手

MATEX-AQTEC RALLY TEAM/ドライバーマシン: KYB DL アップガレージ Yaris





「モントレーの時に PIAA のバーランプを初めて使ったんですけど、LED の明るさにびっくりしました。LED なので光がキレイで見やすいですし、セットアップで照らしたい場所を明るくできるので、うまくヘッドランプを補うことができました。JN6 クラスはレギュレーションでボンネットの上、ヘッドライトの上に装着できないので、コーナーの外側に向けて設置していますが、コーナーのイン側が見えるので安心して走れます。世代的にナイトラリーに慣れてないので、ナイトラリーに出るとタイムダウンしていたんですが、PIAA のライティングシステムを装着することでタイムの落ち幅が少ないと思いますので助かります。あとは撥水ゴムワイパーも今年から初めて使いはじめたんですけど、コーティングの上からでもビビリもないし、スムーズで違和感もないのでビックリしました」

渡部哲成選手

MATEX-AQTEC RALLY TEAM/ドライバー

マシン: KYB DUNLOP YARIS





「ロングタイプの LED バーランプはセットアップしかしてないんですけど、短いタイプよりは光の広がりがいいのでラリーに向いてます。遠くもドライビングランプみたいにちゃんと飛んでくれているので見やすい印象がありました。白い光なので雪は厳しいけれど、それ以外のナイトステージは LED バーランプを外側に向けてあげると見えないコーナーでも見えると思うので走りやすいと思います。 撥水ゴムワイパーも拭き取りの性能がいいですね。 ちょっとした汚れでも少量の水で拭き取ってくれるし、 撥水性能も高いと思います」

内藤学武選手

MATEX-AQTEC RALLY TEAM/ドライバー

マシン: KYB DL Yaris CVT





「PIAA の LED ランプをテストしたんですけど、配光もしっかりしているし、LED 特有の前に飛んでいくような光り方をしていたので、かなり明るく見えましたね。テストではロングタイプのバーランプを使用したんですけど、かなり照射範囲が広かったし、色味も自然な印象でした。あとは撥水ゴムワイパーも拭きがしっかりしているし、撥水もしてくれるのでかなり見やすいですね。今年は雨のラリーが多いんですけど、ドライビングに集中できるのでアドバンテージになっていると思います」

辻井利宏選手

Z.A.C.S/ドライバー

マシン: ZACS KYB DUNLOP Vitz





「LED のバーランプは想像以上に明るいですね。とくに今年のロングタイプは従来のコンパクトタイプよりも光量もあるし、照射範囲も広い。僕みたいな年寄りでも良く見えます。全体の重量を考えてもロングタイプを2つ装着したとしても、HID のランプポッドよりも軽いし、取り付けやすいのでメリットも大きい。消費電力も少ないから、パワーも食われないですしね。

あと撥水ワイパーもビビリとかないし、拭きこぼしもない。泥を被った時の"拭き筋"はどうしても材質がシリコンなので出ることはあるけれど、ラリー競技で考えるとベストなワイパーだと思いますね」

(以上)